



創立 1995年 10月 18日

2016～17年度 テーマ **新鮮な全員参加の輪を広め 夕やけのまち永久に照らそう**

第 260 回例会

日 時：平成 29年 6月 8日(木) 16:00～17:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：59名 出席率 88.1%

(会員総数 69名 休会 2名 欠席 8名)

1. 開 会 宮城例会委員長

第 260 回例会開催告知。配付資料確認。

2. 挨拶 岩島会長



皆さん、今日は。

早いもので、本日は今年度最後の例会となりました。皆さんの温かいご支援とご協力を頂き、今年度最後の例会を無事に大過なく迎えることが出来ますことを心

より感謝申し上げます。

振り返って見ますと、今年度のスローガンを「新鮮で全員参加の輪を広め 夕焼けのまち永久に照らそう」としました。

「新鮮さ」に関しては、女性軍が大いに活躍して下さり、運営面のいろいろな点で新鮮味が出たのではないのでしょうか。生涯学習サロンでは、自前講師の皆さんのお働きはもとより、3人の外部女性講師による講話も大変人気がありましたし、例会における卓話も新鮮味溢れ、皆さんに楽しんで頂ける講話が多かったのではないのでしょうか。さらに、同好会も「フラダンス」と「古典芸能鑑賞会」の二つが増えました。

「全員参加」という目標に関しては、一番大切な毎月の例会は出席率 90%以上で、ほぼ全員参加に近く、良かったと思います。ただ、野外研修および野

外サロンに関しては、プロバス会員の参加率が残念ながら今年度も 50%前後で低調でした。

プロバスクラブ会員の参加率が低いのは、制度疲労、つまり、21年間という長年月継続してきていることによる幾つかの問題点が影響しているように思われます。

その一つは、平均年齢が年々高くなり、長時間の遠出が難しくなっていること。二つ目は、行った所が多くなり、全員が行きたい所が見当たらなくなってきていることなどです。野外研修については、これらの点を考慮して、今後抜本的に見直しをする必要があるように思います。

「輪を広め」、つまり、会員を増やす点に関しては、杉山会員を中心とするお働きにより今年度は 4名の方が入会されました。一方、御不幸を含め 3名の方の退会があり、都合 1名の増加にとどまりました。

交流事業に関しては、昨年 9月に八王子京王プラザで全日本プロバス協議会東日本第 1回ブロック交流会を主宰し、皆さんの絶大なるご協力に依り、本当に楽しい素晴らしい交流ができました。また、多摩プロバス、日野プロバスとの交流も徐々にではありますが活発になってまいりまして、今日も懇親会で日野プロバスの村瀬彰吾様が出前講師としてサクスの演奏をさせていただきます。

また、八王子「宇宙の学校」も会員全員支援の下、運営体制も強化され、子供達に大変人気のある事業として、成功裡に終わり、来期の準備も順調に進んでおります。

以上、今年度を振り返り、見直すべき点は来期の武田会長年度にお願いし、これから更に会が発展することを祈念して挨拶といたします。

3. ハッピーコインの披露

(5～6 ページに掲載)

4. パースデーカード贈呈

池田会員手作りのパースデーカードが岩島会長より贈られた。左より、一瀬、広瀬、持田、山形の4会員、おめでとうございます。



5. 次年度組織の報告

武田次期会長

3種の文書があると思いますので、ご確認下さい。



- ・2017-2018 年度理事分掌
- ・2017-2018 年度役員分掌
並びに委員会等および会長委嘱 人事発令
- ・委員会・プロジェクトメンバー構成表

5月25日に新理事の会合を開催し、役員人事等の話し合いを行いました。

- ① 理事による会長、副会長、幹事の互選
- ② 会長による各委員会委員長、プロジェクトリーダーの指名
- ③ 委員長、プロジェクトリーダーにより副委員長、メンバーの人選

副委員長は原則として、当期の委員長が入ることになっております。

又、大幅な委員の異動は委員会活動に支障をきたします。最小限にとどめました。

その結果を、発表させていただきます。

これから、1年間、新たな組織で皆様の活動よろしくお願いたします。

次期役員分掌 (敬称略)

会長	武田洋一郎
副会長	馬場 征彦
幹事	内山 雅之
副幹事	河合 和郎
例会委員長	山口 三郎
情報委員長	山崎 光子

会員委員長	戸田 弘文
研修委員長	竹元 正美
地域奉仕委員長	永井 昌平
交流担当	浅川 文夫
宇宙の学校リーダー	下山 邦夫
会計監査	岡本 宝蔵
会計監査	鈴木はるみ

次期副委員長 (敬称略)

例会副委員長	大高 秀夫	根本 照代
情報副委員長	有泉 裕子	田中 信昭
会員副委員長	土井 俊雄	久野 久夫
研修副委員長	池田ときえ	斎藤万理子
地域奉仕副委員長	岩島 寛	持田 律三
宇宙の学校サブリーダー		寺田 昌章

6. 幹事報告

飯田幹事

- ・本日新体制が発表されました。
6月末までの間に新しい委員会毎の顔合わせがあり新旧の申し送り等過密スケジュールになります。連携をよくし、遺漏ない実施をお願いします。
- ・休会の方が2名おります
5月末付で石田雅巳会員、6月末付で澤渡進会員です。お二人とも体調不良によるとのことですが本日は澤渡会員が出席されておりますので一言皆様の前でお話ください。
澤渡会員から「今までのプロバスクラブ活動および体調不良による休会に至るまでの経緯」のお話がありました。
お二人のご回復と一日も早いプロバスクラブへの復帰を祈念しております。

7. 委員会活動報告

(1) 例会委員会

宮城委員長

出席者数、出席率は当初報告の通り。

(2) 情報委員会

有泉委員長

「プロバスだより 259号」をお手元にお届けいたしました。今回の編集は東山委員によるものです。第21回「生涯学習サロン」の抄録は46頁に纏めました。理事会においてレイアウトの見直し部分が指摘され印刷が間に合わなくなり、今日の例会でお手元にお届けできなくなりまして申し訳ございません。お詫び申し上げます。

ホームページにつきましては、トップページの写真のスライド化を検討しましたが、予算の都合で理事会において見送りされることになりました。7月に発行するプロバスだより 260号までが今期の委員会の担当です。

一年間皆様のご協力ありがとうございました。

(3) 会員委員会 土井俊雄委員長

この1年間会員委員会メンバー及び会員の皆様のご協力をいただき何とか職務を全うできました。会員拡充につきましては全面的に杉山会員に助けられました。今後も会員委員会に残りますのでよろしくをお願いします。

(4) 研修委員会 池田委員長

おかげさまで卓話、野外研修など無事に実施できました。みなさまのご協力に感謝します。

次年度もほぼ同じメンバーで活動しますので、引き続きご協力くださるようお願いいたします。

(5) 地域奉仕委員会 持田委員長

この1年大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

最後の報告となりますので簡単に振り返ってみたいと思います。

・7月から毎月例会の日に地域奉仕委員会の定例会と称して毎回1時間ほどの打ち合わせ会を開き、情報共有と結束を高めてきました。

・開講式・閉講式の特別講師の講話はプロバス会員の紹介を得まして「オーロラの話」と「映画制作」の2つのテーマで良い話を聞くことができたと思っております。

・サロンでは1週に各4テーマで、3週にわたり12テーマを用意いたしました。

テーマ選びには過去の10年間の実績を分析し、市民が関心を持つものを取りあげる事がプロバスの地域貢献につながるものという考えで選択致しました。そこで、「ヨガ」「美と健康」「江戸しぐさ」などが選ばれ、それらを外部講師にお願いしました。少々の予算は増えましたが、参加者が増えることでトータル的には効果があったと考えられます。

・野外サロンでは「エネルギーと環境」というテーマで、豊洲のガス科学館、NHKスタジオパーク、立川の南極・北極科学館を見学しました。

館内説明員を付けることで丁寧な話が聞けて良か

ったとの声がアンケートに多く頂いております。

・さよならパーティーはシニアダンディーズとフラダンスの熱演により大変な盛り上がりを見せることができました。

・人数的にはサロンへの総参加者数は812名で、昨年比37名。一般会員の内訳は新規会員36名+リピート会員79名=115名でした。

・今後の課題としては、リピート率が高いので更にこれを高めるのは難しいので、新規会員を如何に増やすかという事が重要となります。

・また、プロバス会員のサロンへの参加率が低く、特に野外サロンへの参加は32/69名で46.3%にとどまり、年々低下傾向が見えています。

・経費的な面からは今回参加者が800名を越えたので、採算はとれたが一般会員の人数が100名を越えないと採算割れすることがあるので会員維持が重要。

・「いちよう祭り」「健康フェスタ」にも例年通り割り当てを受けて取り組みました。

皆さまのご理解とご協力を頂きまして、無事に過ごすことができました。

ありがとうございました。

(6) 交流担当 浅川会員

多摩プロバスクラブ副会長西村様から、クラブ交流についてご相談があり、多摩、日野、八王子の3クラブ交流担当者会議を行いました。

実は5年前の交流担当者会議で、卓話について、各クラブで交流するのであれば交通費、謝礼などは無償とすると決めました。

それで何回かの卓話の交流が行われましたが、このところ実施されておられません。卓話に出向くには、交通費や準備などに実費がかかる。それを卓話する本人が全部負担するとなると、卓話する人も、また依頼する方も、何となく気が引けるのではないかと。そこで、今後は実費として1件につき5,000円とする。ただし配布資料は、原稿の提出を受けて、依頼クラブで必要部数を用意する。又卓話する人が一人で他クラブに出かけるより、一緒に出席する人がいたら、参加していただければ、より交流のためになるだろうと言う事になりました。

今日この後、年度末懇親会に日野プロバスクラブの村瀬様にサクスの演奏をお願いしておりますが、日野クラブからは、会長の小島様、幹事の土方様も

一緒に参加頂けることになっております。当クラブ
会員皆様方も宜しくお願い致します。

(7) 八王子「宇宙の学校」 下山PJリーダー

「宇宙の学校」の応募を締め切りましたが、状況
は3会場合わせて、募集206組に対し、392組の申
し込みがあり約2倍でした。いよいよ6月11日(日)
の東京工科大学会場からスタートします。

例年、ボランティアとして人的ご支援に併せて、
プロバスクラブの支援の会を通して、金銭面での多
大なサポートいただいております。おかげで「宇宙の学
校」の評価はますます高まっています。今年も引き
続き、さらに一段評価を上げるよう頑張りたいと存
じます。よろしくご支援ください。

8. 同好会会員活動

麻雀同好会

荻島会員

人が集まらないので、今回は出席率の良い4名が
1卓で行う事にしました。

フラダンス同好会

根本(照)会員

フラダンス同好会は8月で1年を迎えます。

会員は現在、8名(プロバス会員7名、学習サロン
会員1名)、このうち2名が男性で90分の練習時間
があつという間でとても楽しい時間を過ごしていま
す。5月11日の生涯学習サロンのさよならパーティ
ーでは、練習の成果をお披露目することができ、こ
の上ない喜びでした。前日までの練習では十分覚え
きれておらず不安でいっぱいでしたが、本番になっ
て、お酒が入っての会場の皆様の盛大な応援もあつ
て、ノリノリで楽しく踊ることができました。

「月の夜は」を会場のみなさま全員で踊ることが
できたのもパーティーが盛会で終わることができた
要因と喜んでおります。

フラダンスは健康によいのです。あのハワイの素
敵な風景を思い浮かべながら、ゆったりとメロディ
ーによって身体を動かすと「癒し」になります。



中腰で腰の動きも軽やかに踊れば、お腹の内部の
筋肉と膝とその周辺の筋肉を鍛えることができ、尿
漏れ予防や転倒防止の効果も期待できます。

手足の動作を覚えるのに四苦八苦ですが、これが
呆け防止になるそうです。レッスンの後は「びおら」
のシェフのランチ・コーヒーをいただきながら歓談
の時間となります。如何ですか、ご一緒に楽しみま
せんか……。

9. その他

塩澤会員

市制100周年にちなんだ「健康フェスタ」が行わ
れた。今回はエスフォルタアリーナで開催されたの
で、過去最高の一万人を超える方々が参加した。受
付が大変混雑しましたが、受付を担当されたプロバ
ス会員の皆様に大変なご苦勞をおかけしました。

宮城会員の指導で、疲れた頭と身体をほぐす体操
を行いリフレッシュしました。

10. プロバス讃歌斉唱

11. 閉会

武田副会長

年度末の例会出席、お疲れ様でした。
この1年間、それぞれのお立場で活動いただきあり
がとうございました。お陰様で、次期の皆様の役割
分担も決まり、安堵しております。

一応、所属は決まりましたが、サロンや各種イベ
ントで多忙な時は委員会の枠を超えて、ご協力をお
願いしたいと思います。

これから、各委員会の初顔合わせ会合で、委員長
からの活動方針が示されると思います。

よろしくご協力方お願い申し上げます。

懇 親 会

例会に続き、年度末恒例の懇親会が5時30分
から開催された。司会、進行は宮城安子会員と山崎光
子会員の2名。山崎会員の軽妙な口調で開会が宣言
された。岩島会長の挨拶に続き、永井前会長の音頭
で乾杯があり、会食・懇親会に入った。

第1部 サックス演奏と会食

村瀬省吾様（日野プロバスクラブ）のサックス演奏をBGMに会食。曲目はグレンミラーなど、懐かしいものが多く、思わぬリッチな楽しい会食となった。懇親会の途中から、日野プロバスクラブの小島馨会長、土方尚功幹事も参加され、日野プロバスクラブとの交流もさらに深まりを見せた。



しいものが多く、思わぬリッチな楽しい会食となった。懇親会の途中から、日野プロバスクラブの小島馨会長、土方尚功幹事も参加され、日野プロバスクラブとの交流もさらに深まりを見せた。



土方尚功幹事(左) と小島馨会長

第2部 お楽しみゲーム

全員参加のゲームで展開された。各委員会の会員同士の協力度を競うゲームであった。最後は、各委員会代表が壇上に上り、〇×ゲームを行った。



第3部 サックスとカラオケ

カラオケの予定であったが、再度サックスの演奏になった。多くの方がサックスの生演奏で得意の歌を披露した。生演奏のため、キーをあわせるのに苦労されていた。



サックスに合わせて歌を楽しむ

第4部 各委員会挨拶

三役をはじめ、各委員会のメンバーが壇上に上がり、一年間を振り返って感謝の挨拶を行った。



三役の挨拶

次年度への引き継ぎ



最後に、今年度から次年度への引き継ぎという意味を込めて、岩島現会長と武田次期会長が堅い握手を交わして、楽しかった懇親会もお開きとなった。

ハッピーコイン

- ◆岩島会長 1年間ご苦労様でした。 大高 秀夫
- ◆俳句の吟行会で西穂高に登ってきました。生まれて初めての最高峰登頂です。米寿万歳！

渋谷 文雄

◆平成 29 年度「宇宙の学校」に大勢(約 2 倍)の応募をいただきました。6 月 11 日からスタートです。

下山 邦夫

◆7 月 17 日にシニアダンディーズがいちょうホールの大ホールにデビューします。どうぞ応援よろしくお願いたします。

立川富美代

◆1 年ぶりに、アメリカに嫁いでいる娘が孫をつれて帰国しました。孫(男の子)が高校生で、あまりの大きさにびっくりしました。

土井 俊玄

◆岩島年度が今年で終わり、多難だったと思いますが、成功おめでとう。

濱野 幸雄

◆坂道を登り下りてあの世まで

古川 純香

◆岩島年度の役員の皆様、1 年間ご苦労様でした。ありがとうございました。

吉田 信夫

◆5 月 27 日、由井吹奏楽団アンサンブルコンサートにてトロンボーン 5 重奏の 4 番パート担当、演奏曲 “Departure” (2003 年 T B S 日曜劇場「Good Luck」木村拓哉出演の主題歌)。私の旅立ちを祝ってメンバーが編曲、メンバーの一人、某航空会社の機長がセンターで演奏しました。ちなみに、男性 2 人は副機長、女性 2 人は C A のスタイルでした。

武田洋一郎

◆一年間副会長職を担い、皆様にお世話になりました。来期はクラブ代表として努めさせていただきますのでご鞭撻、ご支援のほど、よろしくお願申し上げます。

武田洋一郎

◆岩島年度ご苦労様でした。感謝!

永井 昌平

◆岩島会長ほか、理事役員の皆様、一年間ありがとうございました。

杉山 友一

◆一年間、岩島会長はじめ理事各位、各委員会の皆様方ご苦労様でした。会務が円滑に終わられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

佐々木 正

◆長かったような、でも経ってしまうとアッと云う間の一年間でした。プロバスライフを楽しみながら皆さんと共に歩むことに感謝いたします。ありがとうございました。

宮城 安子

◆情報委員会は「プロバスだより」を一ヶ月残していますが、皆様のご協力のおかげで終了できそうです。ありがとうございました。

有泉 裕子

◆国立東京博物館の茶の湯展へ行ってきました。年代ごとに展示があり、大変目の保養になりました。

高取 和郎

◆少し早いのですが、この一年間皆様のご協力を頂き、無事大役を果たすことができましたことを、心より感謝申し上げます。

岩島 寛

◆今年度もあと少しというところまで来ました。何かと忙しい年でしたが、理事はじめ皆様のおかげで無事終われそうです。心より感謝です。

飯田富美子

◆「2 度あることは 3 度ある」でした。昨年手術した「癒痕ヘルニア」が再発し、その修復手術を受けました。今度は、腹膜とメッシュと腹筋と“三重”に縫いましたので、もう大丈夫です。都立駒込病院は亡き父の家が関東大震災まであった町なので、いつも「懐かしく、嬉しく？」入院できるのです。

山形 忠顯

◆一年間研修委員会、池田委員長の下で楽しく過ごさせて頂きました。

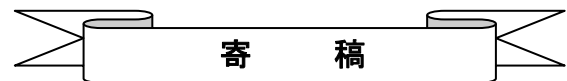
野口 浩平

◆一年間大変お世話になりました。すべての行事が皆様のおかげで無事終わることができました。さよならパーティーも盛り上がり、賑やかにできました。ありがとうございました!

持田 律三

◆6 月例会の本日が、たまたま誕生日と重なりました。6 回りプラス 1 年目。プロバスクラブもゴーイングコンサートですが、その中で一歩でも前へ歩んでいきたいと考えています。

一瀬 明



古典芸能鑑賞会の発足

杉山 友一

当クラブの 12 番目の同好会として古典芸能鑑賞会が発足した。お世話役は文化の香り高い池田会員で、会の代表は能狂言に造詣が深い内山会員が務める。早速ながら発会記念の第一回鑑賞会は千駄ヶ谷国立能楽堂での「能を知る会」東京公演(6 月 18 日)と決まった。因みに「能を知る会」とは公益財団法人「鎌倉能舞台」の商標登録である。

さて、我々は当日に先駆け 5 月 25 日、内山代表を講師に迎えて「初めての能と狂言」と題して勉強会を催した。内山講師の手製による能楽入門編の綴りは実によく出来たテキストで、能の歴史、能舞台の構成、登場人物、能面、能装束、能の音楽と、系統立てて解説を頂き、古典芸能の高い芸術性を再認

識することが出来た。お蔭さまで観劇当日への期待度が一段と高まってきた。

いよいよ当日、午後 2 時開演のマチネーには 10 名が参加した。国立能楽堂に入り脇正面見所の席に着く。本日の 600 席は既に札留とのこと、檜づくりの三間四方、正方形の舞台には緞帳もなければ幕もない、舞台には大層な屋根がある、舞台に続く一の松から三の松までが引き立てる欄干のある渡り廊下（橋掛り）には殊の外存在感がある。舞台の背である鏡板には象徴的な老松が鷹揚に描かれている。演技前の無人空間の舞台から伝わるものは、まさしく「動」の前の「静」の趣で、芸道独特の凜とした空気感に包まれる。本来、屋外舞台が発祥である能舞台を屋内に設えた工夫の歴史が良く分かる。

さて、プログラムの第一は、アナウンサーで古典芸能解説者の葛西聖司氏による「能と歌舞伎「鳴神と一角仙人」酒の功罪」と題した 30 分ほどの講演で、お話の要旨は、600 年以上に亘り演じ継がれ、磨き上げられてきた「能」は、日本が世界に誇る伝統芸能であること、高度に洗練された演技・演出が、「能」に固有な優雅な美しさを創り上げていること、「能」は国の重要無形文化財、ユネスコ無形文化遺産にも指定されていること、等々を解説された上で、されど「能」はあくまで娯楽の一つであり、エンターテイメントなのだと言う点を強調された。その後、本日のプログラムの見どころ、聴き所のガイダンスを丁寧にして頂いた。講演に続き仕舞（舞踏）2 曲を挟んで、続く出し物は、野村万作（和泉流）が主演・演出する狂言「舟渡婿（ふなわたしむこ）」である。



る。狂言は能と同様に猿楽（平安時代）から発展した伝統芸能で、猿楽の滑稽味を洗練させた笑劇である。演目の物語は、渡り船の上で、船頭の巧みな誘いに唆された聳どのが、舅の家に届ける大事な酒樽を空にしてしまう失敗談なのだが、実は舅が船頭だったという話の落ちがクライマックスで、

洒脱で洗練された演者の表現が観客を引き付ける。狂言ならではの味わい深い 35 分間であった。

20 分の休憩に続いて終演の大曲は中森貫太（観世流）が主演・演出する能「一角仙人（いっかくせん にん）」である。物語は、印度波羅奈国において、一角仙人が龍神（雨の神）と争って、これを岩屋に封じ込めたため、旱天が続き地上の営みが狂ってしまう。一計を案じ王様が旋陀夫人を差し向け、その色香と酒の威力で一角仙人を惑わし「龍神」を開放する。仙人は荒れ狂うが、地上には雨の恵みが戻って万事落着となるお話である。これは、歌舞伎十八番でお馴染みの「鳴神」の原典となった作品であるが、能舞台上での旋陀夫人と一角仙人の楽の舞は大きな見せ場で、能ならではの研ぎ澄まされた様式美が目前に広がってくる。歌舞伎の「鳴神」で演じられる鳴神上人と雲の絶間姫との色香の交錯場面とは全く違ったイメージの世界である。能に固有な舞台の構成、装束、音曲、そして熟達の演技、全ての様式美が日常を超越して観客を一段と高尚なエスプリに導いていく。今日の解説者の葛西聖司氏が説く、能は観る者が演者を通して想像し妄想し堪能するものである。まさにそんな想いの正味 60 分間の大曲であった。同好会代表の内山会員、お世話役の池田会員にお礼のことばを申し添えて報告を終えます。

美術鑑賞

宮崎 浩平

お茶の会では、6 月 1 日現在東京国立博物館で開催されている茶道の道具類の展示会の鑑賞会を実施した。開催時期が 6 月 4 日と迫っていたので、大変盛況であった。特に今回は曜変天目の茶碗の一つ、東京静嘉堂文庫美術館蔵の国宝「稲葉天目」が展示されて居ることから、人気が高い特別展であった。

出品されていた曜変天目の茶碗について、お話致します。曜変天目は 12～13 世紀、現在の中国福建省にあった建窯で作られた茶碗で、内側の黒い釉肌に玉虫色の模様が現れたものを指します。これは、焼いているときに釉薬が化学変化し、偶然に生まれた模様なんです。化学変化（窯変）によってキラキラした輝きが生まれたことから、輝きを意味する「曜」の字が当てられるようになったと言われています。ちなみに「天目」は黒釉の焼き物のことです。福建

省の窯では沢山焼かれましたが、曜変天目が生まれることはほとんどなかったようです。

足利将軍家は「世上に無き物」と高く評価しました。完全な状態で残る曜変天目は日本に数点しかなく、今回の東京静嘉堂文庫の「稲葉天目」、大阪藤田美術館蔵、京都大徳寺龍光院蔵の計3点は国宝です。



曜変天目 稲葉天目

中国・建窯 南宋時代・12～13世紀
東京・静嘉堂文庫美術館

蛍 永井 昌平

八王子に移住してきた頃は、家の回りは田んぼで蛍が飛んでいた。捕ったホタルを寝室に放して蛍の光を楽しんだ。田んぼが無くなってからは蛍を見かけることはなくなった。

「蛍雪の功」という言葉があるが、蛍の光で本が読めるのであろうか。蛍の種類はわからないが、一匹の照度は500分の1燭光だそうである（神田左京著「ホタル」1935年）。普通に使われている20ワットの卓上スタンドと同じ明るさにするには、48,000匹のホタルが必要になり、現実離れした話である。

以前、日本企業が盛んに中国に進出した頃、工場のはっきりとした明かりは日本企業の標準規格にしたのであるが、明るすぎるといふ苦情が出た。工場は農民が多く、かなり暗い環境で生活していたようだ。源氏物語の蛍の巻にも、数匹の蛍の光で顔がわかるというような表現がある。その頃の明かりは油皿の芯に火をともし暗いものであった。蛍の光はかなり明るく感じたのであろう。

最近では蛍の養殖が盛んになり、都内の庭園でも蛍鑑賞会が行われている。転勤していた長野県辰野町でも6月に蛍祭りがあり、源氏蛍が飛び交う美しい景色を思い出す。

俳句同好会便り

私の一句～6月の句会から

河合 和郎

同好会では、5月の末に一泊二日の行程で新緑のまぶしい新穂高、飛騨高山へ吟行の旅に。今月の作品は雄大な景を詠んだ吟行句を中心に紹介。

青嵐抜けて天空別天地 田中 信昭

新穂高温泉からロープウェイで展望台へ。そこは360度の展望が開けた別天地。天空に憩うひと時。

岩つばめ穂高の空を縦横に 飯田富美子

吟行句として臨場感に溢れた一句。眼下を燕が飛翔する光景は穂高ならではのもの。忘れがたい光景。

雷鳴や傘出す間なくポツリきて 立川富美代

極日常的な光景を一句に。慌てて傘を取り出そうとしても大粒の雨が。さあ急いで雨宿りを。

夏空や顔出し招くジャンダルム 馬場 征彦

展望台からの景。夏空に西穂高・奥穂高岳が連なり、ジャンダルムが私を呼んでいるようだ。

新緑が山駆け上がる西穂高 渋谷 文雄

ロープウェイの上昇に連れて、新緑が山裾を駆け上がってくる。若々しい感性の躍動感が光る一句。

朝一番窓より冷氣子規の声 山形 忠顯

子規はほととぎすの別称。朝日俳壇（6月19日）の金子兜太に選ばれた一句。今年2回目の快挙。

麦秋や唐箕の風の懐かしく 東山 榮

昔懐かしい農村風景の追憶。唐箕(とうみ)は穀物の脱穀に使う農機具。高山陣屋にも展示してあった。

夏雲や研かへらず遠い嶺 矢島 一雄

「研かへらず遠い嶺」の措辞に深い思いが込められているようで強く惹かれた。吟行句として秀。

大きくはならぬがよろし花茗荷 池田ときえ

茗荷は花時が過ぎると味が落ちる。人もまた臺が立ち過ぎると……という箴言の一句か。ご自覚を。

雪溪の峰仰ぎつつ露天の湯 河合 和郎

新穂高ホテルの露天風呂からの絶景を一句に。山の新緑と夕日に染まる雪溪にしばし時間を忘れて。

編集後記：今回は、懇親会等、書くことが多く、最後まで書き直しがあるなど苦労しました。ちょっと強引にまとめました。一年間、ご協力ありがとうございました。永井 昌平